

言葉のやりとり

阿部 佳南子

昨年から長野県上田東高等学校に赴任し、働き始めて二年目に入りました。担任業と校務分掌でゆっくり辞書を引く時間も取れなくなっていました。言葉が伝わって行く面白さを感じる最近ありました。

昨年は副担任で学校の一年間の動きを知ること、専念し、今年からは一学年の担任を持っています。私の落ち着きがないせい、入学早々怪我の絶えないクラスでしたが、なんとか夏休みまでこぎつけました。一学期の最終日には、学校生活の振り返りと二学期への意気込みを書く時間を設けました。ある生徒のものを読んでいた時、「焦らずふてぶてしく」という言葉が出てきて、おや、と思いました。これは入学式の日配った学級通信で私が紹介した言葉です。

正確には、「人間関係作りを焦らない」、「焦ってはいけません。ただ牛のように図々しく進んでいくのが大事

です。」というもので、どちらも私が作った言葉ではありません。前者は高校の担任の先生から入学式の日配られた言葉で、「仲良くなった後なら馬鹿とかアホとかいくらでも言えるから、今は言葉遣いに気をつけてほしい」という話を聞きました。後者は大学の指導教員の先生から学部の卒業式でもらった寄せ書きの言葉で、元々は夏目漱石が一九一六年に芥川龍之介・久米正雄に送った手紙に書かれているものです。

改めて生徒の言葉を読んでもみると、「図々しく」が「ふてぶてしく」に変わっていることが気になりました。研究室の『日本国語大辞典(第一版)』を引いてみると、「図々しい」は「恥を恥とも思わない。あつかましい。ずぶとえてい。大胆不敵な様子である。」ということでした。後者の方がなんとなくさっぱりしていて、その生徒自身のイメージにも似合っているようです。

元の表現と異なる部分は、その人の経験や解釈が反映されている部分ではないか。そう思うと、目の前の生徒達ともっと色んな話をしたくなりました。人生の長さから言えばあつという間の三年間、言葉のやりとりを焦らず楽しんでいきたいです。

(あべ かなこ 長野県上田東高等学校)